

ボ

ク

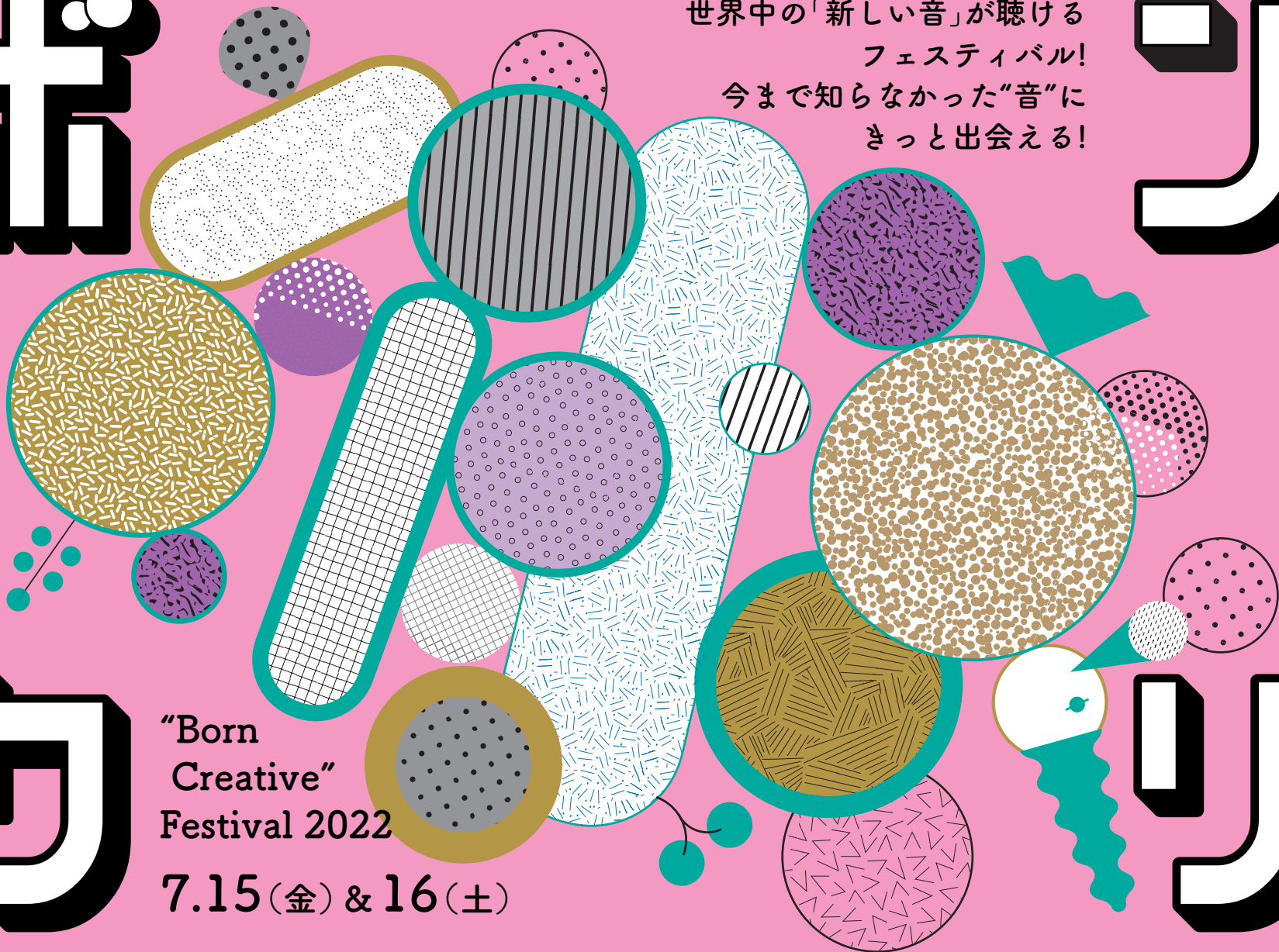
世界中の「新しい音」が聴ける
フェスティバル!
今まで知らなかった“音”に
きっと出会える!

シ

リ

“Born
Creative”
Festival 2022

7.15(金) & 16(土)



ようこそボンクリへ！

本日は、“Born Creative” Festival (ボンクリ・フェス) 2022にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。今年もフェスティバル開催を実現できましたことは、ご来場いただいた皆様、出演アーティストの皆様、そして、様々な形でご支援下さった皆様のご協力の賜物と、関係者一同心より感謝申し上げます。

本フェスティバルは、「今の時代の音楽をより多くの人々に楽しんでもらいたい」という思いから、世界的に活躍する作曲家 藤倉大氏をアーティストック・ディレクターに迎え、その融通無碍な感性で選んだ世界中の「新しい音」をあらゆる人々に楽しんでいただくという企画です。第6回目となる今回は、海外にお住まいのアーティストを3年ぶりに招聘し、ボンクリ・スピリットが劇場館内に溢れるプログラムになりました。

改めまして、本公演の実現のためにご協力いただきました全ての皆様に、厚く御礼申し上げます。「新しい音」に浸る2日間を存分にお楽しみください！

東京芸術劇場

アーティストック・ディレクター：藤倉大

プロダクション・マネージャー：関秀哉

舞台監督：山貫理恵 後藤恭徳 岩崎健一郎 原口佳子 三浦真次 深野賢一
枘永啓介 邱筠筑 (ニケステージワークス)

音響オペレーター：小内弘行 田中健祐 黒崎雅宏 阿部葵
柳澤玲奈 (株)ジョイサウンドプロモーション)

映像技術：阿達直樹 (株)アダチ)

ビジュアルデザイン：秋澤一彰 (秋澤デザイン室)

ホームページ制作：ディップス・ブラネット

【東京芸術劇場スタッフ】

プロデューサー：鈴木順子

アソシエイト・プロデューサー：山下直弥

技術統括：安田武司

音響プラン・技術統括補：石丸耕一

照明プラン・キャプション字幕：新島啓介

キャプション字幕：安藤達朗

舞台：松島千裕 鈴木久仁日呂 藤田満

照明：井上武憲 安藤達朗 川守田英樹 早川美紀子 皆越萌 諏訪明子

音響：永田久美子 行方太一 中野雅也 平本顕栄

制作・運営統括：大島千枝

運営：出口マミ 會宮麻矢 鋤田千里 三浦幸恵 今井俊介

横堀広彦 首藤明彦 前久保諒 半田萌

広報：前田圭蔵 久保風竹 原和美 山口彩

票券：奥村和代 井上由姫

経理：長廣達彦 佐島めぐみ

『ボンクリ・フェス』6周年に寄せて

僕は作曲家で、子供の時から「将来は音楽祭の監督とかになってみたい!」と夢見ていた、なんて事は一度もなく、「東京芸術劇場を1日使えるとしたら、大さんは何をしたいですか?」と鈴木順子副館長に聞かれたので、僕だったら、、、と答えただけだった。それが実現するとは!というのが1回目。監督のやり方も分からなかった。そこですでにいろんな音楽監督で大活躍しているアーティストの親友達を呼んできたら良いじゃん!と僕は思い、声をかけ始め、今に至る。

最近、いろんな国の新しい音を追求するアーティストやグループのリーダーから売り込みのメールが来る。もう1通目から「旅費はこっちでなんとかしますし、ギャラもあったら嬉しい、くらいなので、とにかくボンクリ・フェスで音楽作りをさせてください」と来る。ありがたい話だし、そこでやりたい!というそれぞれが追求しているプロポーサルも面白いものばかり。

それらを見て思うんだけど、つくづく、世の中にはいろんなアーティストがいて、いろんな新しい音を追求しているんだなあ、と。これだけネットやいろんな情報が飛び交うのに、中々辿り着けない。でもボンクリ・フェスにさえ来れば、僕も含めて、え?こんな音楽ってアリなの?こ、これは、、、どう考えたらいいのかなあ、でも良いかもしれないなあ、とか、アーティストが音楽のためにやっている、追求している音作りが一気に聴ける場所。

今年は、やっと日本の国境が開いたので、海外のアーティストが来られる予定になっている。2020年の時も、2021年の時も、ギリギリまで「行けるかな?」「来られそうかな?」と予定しては、断念して今年まで延期してもらった。そんなわけで、今年は前年よりも特別なフェスになります。

世界のいろんな人が、違う文化、全く個人的なユニークな視点から、「新しい音とは」と作るのが音楽作り。そんな人たちが世界中にいて、紹介したい音楽やアーティストが多すぎて、毎日ボンクリでも良いくらい。これからも、どんどん新しい音を追求するアーティストを紹介できる特別なフェスになれば、と思います。

藤倉大 (作曲家/ボンクリ・フェス2022 アーティスティック・ディレクター)

藤倉大
Fujikura Dai

作曲家
ボンクリ・フェス2022
アーティスティック・ディレクター

Composer
Artistic Director

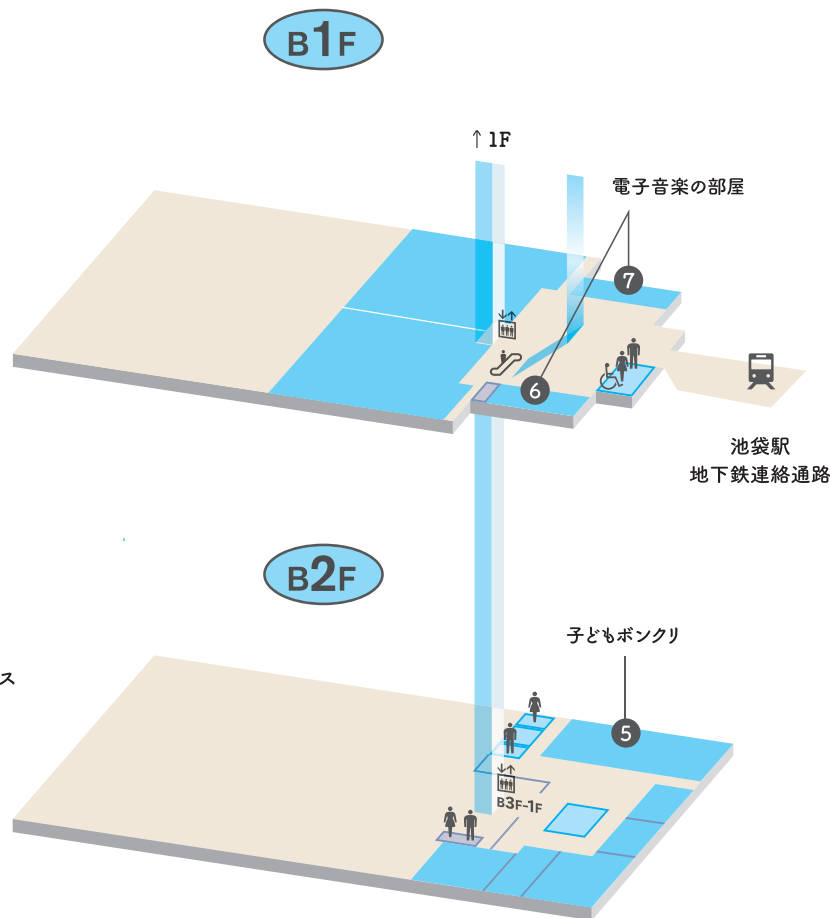
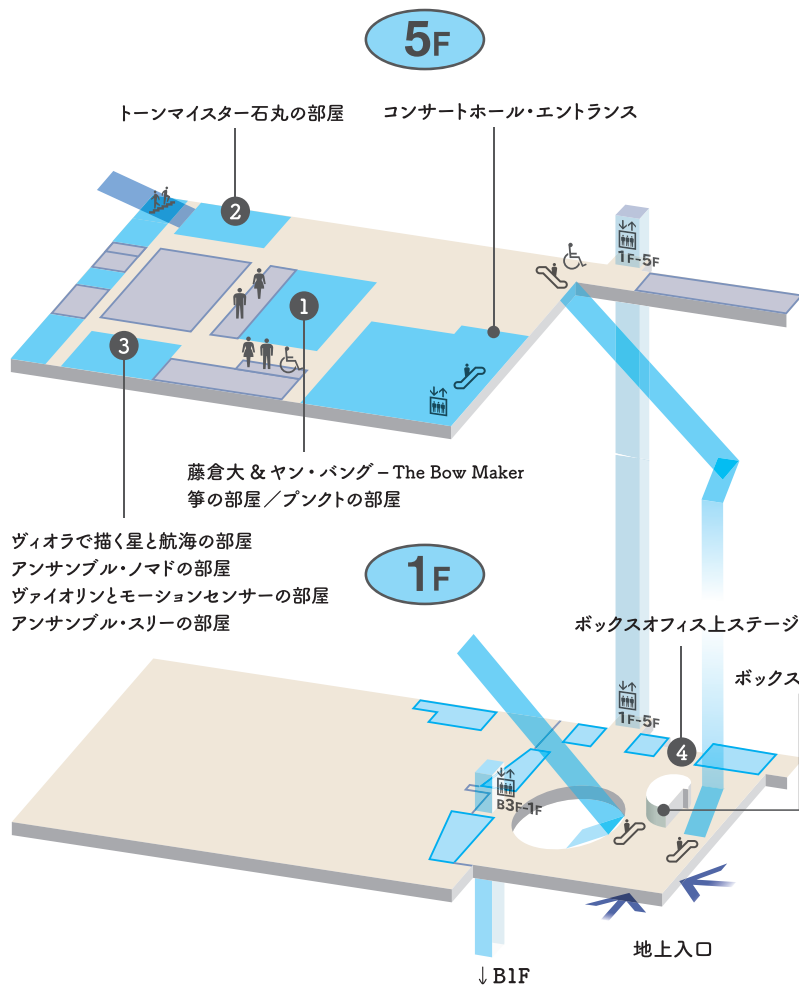
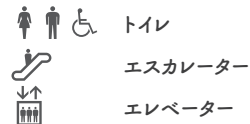


©Aif Soibakken

大阪生まれ。15歳で単身渡英しベンジャミンらに師事。数々の作曲賞を受賞、国際的な委嘱を手掛ける。2015年にジャンゼリゼ劇場、ローザヌ歌劇場、リール歌劇場の共同委嘱によるオペラ《ソラリス》を世界初演。20年に自身3作目のオペラ《アルマゲドンの夢》を新国立劇場で世界初演。数々の音楽誌において、その年のオペラ上演におけるベストに選出された。17年から東京芸術劇場で毎年開催の「ボンクリ・フェス」アーティスティック・ディレクターを務める。19年に尾高賞、文化庁芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。近年の活動は多岐に渡り、リモート演奏のための作品の発表、テレビ番組の作曲依頼も多数。今年自伝本を出版。録音はソニー・ミュージックジャパンインターナショナルや自身が主宰するMinabel Recordsから、楽譜はリコルディ・ベルリンから出版されている。

<https://www.daifujikura.com/>

フロアマップ
Floor Map



7.15(金)&16(土) スケジュール Schedule

		9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	21:00
15 (金)	1 ギャラリー1(5F)																								
	3 シンフォニー スペース(5F)																								
	コンサートホール (5F-7F)																								
16 (土)	1 ギャラリー1(5F)																								
	2 ギャラリー2(5F)																								
	3 シンフォニー スペース(5F)																								
	4 アトリウム ボックス オフィス上ステージ (1F)																								
	5 リハーサル ルームL(B2F)																								
15	6 アトリエイスト(B1F)	電子音楽の部屋 入退場自由(11:00~19:00)																							
16	7 アトリエウエスト(B1F)																								

※やむを得ぬ都合により、スケジュールが変更になる場合がございます。

誰でも楽しめる 無料プログラム

ボンクリ精神あふれるオン
ガクが東京芸術劇場の館内
を駆け巡ります

電子音楽の部屋

Electronic Music Room

日程 7.15 (金) 16 (土)
両日 11:00~19:00

会場 アトリエイスト、
アトリエウエスト (B1F)

監修 檜垣智也

Supervisor: Higaki Tomonari

出展アーティスト

ドニ・デュフル (特集)
大塚勇樹、ダフネ・オーラム (ピックアップ)
天野知亜紀、池田拓実、石原遼太郎、牛山泰良
岡田智則、佐藤亜矢子、田代啓希
フランコ・デグラシ、仲井朋子、中島弘至
sachiko nagata x chiharu mk
永松ゆか、新美術、林暢彦、マ・ユンジュ
宮木朝子、ユミヤマシタ、李英姿、渡辺愛

Denis Dufour, Ohtsuka Yuki, Daphne Oram, Amano Chiaki,
Ikeda Takumi, Ishihara Ryotaro, Ushiyama Taira,
Okada Tomonori, Sato Ayako, Tashiro Hiroki,
Franco Degrassi, Nakai Tomoko, Nakajima Koji,
sachiko nagata x chiharu mk, Nagamatsu Yuka, Niimi Toru,
Hayashi Nobuhiko, Yun-Ju MA, Miyaki Asako,
Yamashita Yumi, Li Yingzi, Watanabe Ai

入退場
自由

監修ノート

檜垣智也

今回特集するドニ・デュフルさん (1953-) は、フランスを代表する作曲家でありながら教育者、イベント企画者、アンサンブルや音楽祭の設立者、レーベルプロデューサー、起業家など多彩な顔を持っています。フランスの電子音楽「ミュージック・コンクレート」の創始者ピエール・シェフェールの継承者と目され、音そのものを純粹に聴くことを追求した「アクスマティック (静聴)」というコンセプトを深化させています。空間的なサウンドと精緻を極めた音響構成で、恋愛や憂鬱といった身近な課題から歴史や宗教を下敷きにした壮大なドラマまで、人類共通の普遍的なテーマをダイナミックに描きます。

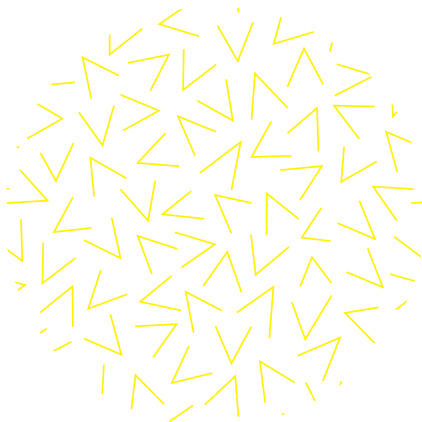
ところでシェフェールも作曲活動の傍ら、音響技師、研究者としてラジオ局に勤務していました。そこで今回は彼のように二足の草鞋を履いて創作活動を展開する2名のクリエイターをピックアップ。まず京都を拠点にサウンド・エンジニアとして活動しながら Molecule Plane 名義でシンセサイザー演奏を展開している大塚勇樹 (1986-) さん。新作をまじえた自選プログラムを届けてくれました。もうひとりはいギリス BBC の音響技師ダフネ・オーラム (1925-2003) さん。彼女の名を冠した図形をベースに電子音を生成するユニークな装置「Oramics」による音楽を中心に紹介します。

ほかにもプロ作曲家はもちろん、ボンクリ・フェスらしく学生や、ほかに仕事をもちながら創作している方、退職を機に作曲を始めた方など、様々なバックボーンと世代の作品を今回も集めました。お目当てをたっぷりと、電子音楽未体験の方はカジュアルに、あなたらしくお楽しみいただければ幸いです。



毎年大人気の電子音楽の部屋。おそらく電子音楽が、人間にとって一番自然な音楽作りの環境だと思う。なぜなら、パソコンさえ持っていれば、誰でも新しい音を作り、音楽にすることができるから。それもあってか、毎回キュレーターの檜垣さんが音大生から、電子音楽の巨匠、昼間は幼稚園の園長先生をなさっていて夜は電子音楽を作っている方、などなど、色んなバックグラウンドを持つ作曲家を選んでくださります。さて、今年はどうな顔ぶれ、音ぶれなのでしょう!?

「電子音楽の部屋」の詳細プログラム、スケジュールについては右記のQRコードからご覧いただけます。



アトリウム・コンサート

Atrium Concert

会場 アトリウム ボックスオフィス上ステージ (1F)

[鑑賞におけるお願い]

ご鑑賞の際はほかの方とのソーシャル・ディスタンスの確保にご協力ください。

Program & Program notes

日程 7.16 (土) 9:40~9:50

出演 現代奏造 Tokyo サックスカルテット

菊地麻利絵 (sop.)、近田めぐみ (alt.)、
塚田奈緒子 (ten.)、山口雄理 (bar.)

Gendai Souzou Tokyo Saxophone Quartet
Kikuchi Marie, Chikada Megumi, Tsukada Naoko
Yamaguchi Yuuri

♪ マイケル・トーキー：7月

Michael Torke: July

《7月》は、作曲者がある時ふと聞こえてきたリズムグループにサックスの俊敏性を意識し、速い音符を書き連ね、それを土台にして音程を引き出し、オリジナルのリズムを割り当てて作曲されました。対照的なテーマやムードがひとつの楽章の中に組み込まれ、ひとつの色彩をひたすら追求するのではなく、7月のエネルギーと暑さ、そして夕方にやってくる涼しい安息の風など、時間的な体験に対応する音楽になっています。(現代奏造 Tokyo サックスカルテット)

日程 7.16 (土) 13:20~13:30

出演 本條秀慈郎 (三味線)

Honjoh Hidejiro (Shamisen)

♪ 松平頼暁：Drawing 2022

Matsudaira Yoriaki: Drawing 2022

2022年、本條秀慈郎さんの委嘱によって作曲。A~Dの4つの要素から成る。その配置はABCADCABDAである。Aは変奏、Bはアルペジオ音型、Cはコード、Dはノイズを主体としている。作品はこの「設計図」に従って作曲されている。(松平頼暁)



今年のアトリウム・コンサートでは、三味線奏者の本條秀慈郎さんが松平頼暁さんの作品を演奏してください。実は今まで僕は松平頼暁さんの作品を何回も選ぶとされていたのだけど、毎回、松平さんの作品をよく演奏する人たちから「日頃松平さんの作品演奏しているので、違うのがやりたい」と言われたり、で今年やっとの実現です!そしてある時ツイッターを眺めていると、僕のサックスカルテットを演奏してくださいの公演情報をたまたま見つけました。すると、僕の曲よりも、久々に見るマイケル・トーキーのJulyが載っているのを見て懐かしくなりました。Julyといえばサックスカルテット大ヒット作品。僕の音大時代には周りみんなこの作品を吹いていましたし、僕も大学生時代にトーキーさんが審査員を務めるコンクールに応募したことがあります。今年のボンクリは7月。7月にJulyをするには最適だろうな!しかもファンファーレで!と思い、ツイッターで奏者の方達に連絡し、演奏の快諾を得ました。

新しい音への扉を開く ワークショップコンサート

各部屋：1,000円(定員あり)

事前
申込制



当時9歳の藤倉みなの絵

ヴィオラで描く 星と航海の部屋

The Wayfinder Room

日程 7.15 (金) 19:00~19:45 [受付開始18:45]

会場 シンフォニースペース (5F)

出演 アン・レイレフア・ランツィロッチィ (ヴィオラ)

Anne Leilehua Lanzilotti (Viola)

Program

♪ 藤倉大：スター・コンパス (日本初演) ほか
Fujikura Dai: "Star Compass" for viola (Japan Premiere) etc.

ヴィオラ奏者・作曲家 アン・レイレフア・ランツィロッチィによるレクチャー&コンサート。ランツィロッチィはスペシャル・コンサートにて、藤倉大/ヴィオラ協奏曲『ウェイファインダー』を世界初演します。この作品は、彼女のルーツであるポリネシアに伝わる伝統的な航海術「ウェイファインディング (天体観測、海流や波浪の観測、生物相の観察、風向の観測などから自らの現在位置と方向を推測する航法技術)」のアイデアに触発され、作曲されました。なお、この作品は、ジャストゥス・シュリヒティング氏と妻のエリザベスのスポンサーにより、委嘱されました。

スペシャル・コンサートに先駆けて、ウェイファインディングに関するお話とヴィオラ協奏曲から生まれた作品、藤倉大/スター・コンパスの演奏などをお届けします。



アンとはもう何年友達なんだろう。確かルツェルン音楽祭で僕の作品を弾いたのが最初だと思う。それからアメリカに僕が行くたびに、初めて僕に会うアメリカの人はいつも第一声で「私はアンの友人で、、、」と言っていた。そんな存在感強いアンは会うと繊細で素敵な音楽家だ。作曲家でもあり、ヴィオラ奏者でもある。ハワイの血を引く彼女。僕は彼女から新作を頼まれた時、真っ先にハワイの何か、からヒント得られないか、と考えた。その時にアンが言ったのがウェイファインダー、星を見て進む航海術。なんと音楽的なトピックなんだろう!!!

藤倉大 & ヤン・バング - The Bow Maker

Fujikura Dai & Jan Bang
- The Bow Maker

日程 7.15 (金) 20:15~21:00 [受付開始20:00]

会場 ギャラリー1 (5F)

出演 ヤン・バング (ライブ・サンプリング、サンプル)
藤倉大 (シンセサイザー)
アイヴィン・オールセット
(ギター、エレクトロニクス)
エリック・オノレ
(シンセサイザー、サンプラー)

Jan Bang (live sampling, samples)
Fujikura Dai (synthesizer)
Eivind Aarset (guitar, electronics)
Erik Honoré (synthesizer, sampler)

ゲスト 本條秀慈郎 (三味線)
八木美知依 (箏)

Honjoh Hidejiro (shamisen)
Yagi Michiyo (koto)



2020年、パンデミックが始まった時に、僕もやる事がなかったので、早速無意味にシンセサイザーのソフトを購入した。数日それで一人で遊んだ後、パンデミックなので、世界中の僕の音楽家友人も暇かな、と思い、ヤンに、「一緒に作曲しようよ!」と声をかけた。そうして作り、完成させたアルバムがこれ。今回、ヤンは、このアルバムのライヴをしたい!という。アルバムでトランペットを吹いている部分を三味線の本條秀慈郎さんに弾いてもらいたい、アルバムには参加していないのに八木美知依さんにも参加して欲しい!とヤンから言われて、お願いしてみた。アルバムでは僕は全トラックにシンセサイザーで参加して、ヤンとの共同作曲した。僕も演奏に参加するんだけど、どんな感じになるのかな!

子どもボンクリ

Born Creative Festival for Kids

日程 7.16 (土)

時間 ①10:00~11:30 [受付開始 9:45]
②12:15~13:45 [受付開始 12:00]

会場 リハーサルルームL (B2F)

案内人 酒井雅代 山崎朋 柳澤藍*

Sakai Masayo, Yamazaki Tomo, Yanagisawa Ai

演奏 川村葵山 (尺八) 本條秀英二 (三味線)

吉澤延隆 (箏) 藤舎夏実 (邦楽囃子方)

Kawamura Kizan (Shakuhachi)

Honjoh Hideeiji (Shamisen), Yoshizawa Nobutaka (Koto)

Tosha Natsumi (Hogakuhayashikata)

Program notes

音とカラダで表現する「子どもボンクリ」。昨年に引き続き、東京藝術大学一般公開講座から始まったアートプログラム「ムジタンツ」のメンバーが案内人となって、NHK Eテレの音楽教育番組「おんがくの おもちゃばこ」のために藤倉大が作曲した作品「はじけるどつつる」を題材に、カラダを動かしながら、音楽家たちと創作し、新しい音の体験を探っていきます。三味線・箏・尺八・小鼓など和楽器が大集合!あまり間近で聴いたり見たりする機会がない楽器の音色や演奏する姿にワクワクするはず!楽器の音に合わせてカラダを動かしたり、カラダの動きから演奏家が色々な音や音楽をつくり出します。演奏家と案内人と楽しいセッションを始めよう!

ムジタンツとは？

音楽 (Musik) とダンス (Tanz) を組み合わせた造語です。音楽の酒井雅代と身体表現の山崎朋が互いの専門性を持ち寄り、音楽とダンスを融合させた新しい形のワークショップを開発。2018年に東京藝術大学一般公開講座「藝大ムジタンツクラブ」としてスタートしました。音楽を聴いて、遊んで、楽しみ、探求し、体感しながら作品との「対話」を目指すとともに、価値観や創造力を広げられるようアプローチしています。

* DUMI 資格保有者

DUMI(デュミ): 1984年にフランス国民教育省及び文化省によって創設された音楽家の国家資格。



大人ボンクリがあったら、子どもボンクリがあっても良いんじゃない？ そうですね、音楽教育をフランスで勉強した方が職員にもいらっしゃるじゃないですか！ そんな感じで始まったのが子どもボンクリ。そうなんです、ボンクリフェスは、東京芸術劇場の(おそらく)真面目な職員の全ての才能を生かし、前面に持って来て作る、作りたい、と僕は最初から思っていました。去年も邦楽の奏者を招いた子どもボンクリ。今年はどんな感じになるのかな、楽しみ。全世界の小学校でこういう音楽の授業だったら世の中平和になるだろうな、とも僕は思う。

アンサンブル・ノマドの部屋

The Ensemble NOMAD Room

日程 7.16(土) 10:00~10:45 [受付開始9:45]

会場 シンフォニススペース (5F)

演奏 アンサンブル・ノマド、ダースレイダー
ノマド・キッズ

Ensemble NOMAD, DARTHREIDER, NOMAD Kids

Program notes 文: 佐藤紀雄

♪ ホン・ソング: フルッジオ

Hong Sungji: Fruscio

韓国の作曲家ソングがこのピッコロ独奏曲を作曲したのは、彼女がレジデンス作曲家として滞在したアメリカ、コネチカット州の豊かな自然のなかでだった。通常のピッコロの奏法に加え、普段ピッコロ奏者は成るべくその存在を消したがる息音をわざわざ目立つように加え、楽器音に積極的に息音を干渉させ、不思議な笛の音を発する。コネチカットの広大な自然を渡る風音に運ばれて聞こえるピッコロのイメージ。

♪ ロバート・アシュリー: シー・ワズ・ア・ヴィジター

Robert Ashley: She Was A Visitor

アメリカの前衛作曲家で、最初はノイズを多用した前衛的な

作品を書いていたが、後年、様々なメディアを屈指した「テレビ・オペラ」という新しい表現方法を用いた作品によって注目を集めた。この作品は、意味深な「彼女は訪問者」という言葉が噂のように囁きあう様子を不特定の聴衆を交えて演奏される、一種の疑似劇場作品である。

♪ アナヒタ・アッパースィー:

No I am not roaming aimlessly (Solo Flute)

Anahita Abbasi:

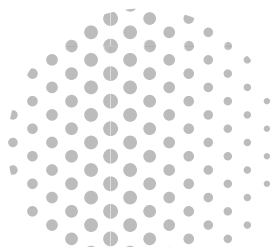
No I am not roaming aimlessly (Solo Flute)

イラン出身の彼女は現在アメリカのサンディエゴに住み作曲を中心とした音楽活動を活発に行っている。作品では出身地の伝統的な神秘主義スーフイズムに依拠した人間の根源的な対話(自問自答も含む)を作品の重要な要素として反映させる作品を書いている。この作品はベルジャにおける最高の神秘主義詩人の一人と伝えられているルーミー(1207-1273)の言葉にインスパイアされ作曲された。

♪ トム・ジョンソン: ナーラーヤーナの牛

Tom Johnson: Narayana's Cows

アメリカに生まれ現在はバリに住むトム・ジョンソンは徹底して最小限(ミニマル)の素材によって作曲する作風で知られている。その作品は数の法則を一旦決めたらそこから逸れることなく、まるで自動筆記のように自然に音符が並んでいく過程そのものを作品に定着させる方法をとる。牛が子牛を爆発的に産み増やしてゆく様子をそのまま音に置き換えてゆく音楽。作曲上の仮定の法則なので「生まれるのは雌牛だけ？」は愚問である。(テキスト日本語訳: 寺内大輔)





「アンサンブル・ノマドの部屋」は、毎回、ノマドの音楽監督の佐藤紀雄さんと深くて濃い会議をして決めています、というのは嘘で、日頃から「この曲知ってます?かっこいいですよー」とか「こんな作曲家見つけたんですけど、どう思います?」みたいなことをお互いメールで話し合っているんです。ボンクリでやりたい、とかそういうことだけではなくて、実際今日もそんなメールが佐藤さんから来ていたところで、毎回演奏したい曲がありすぎる中、そこから厳選するのが大変。そう、世界は新しく、面白い音に溢れているのです。

箏の部屋

The Koto Room

日程 7.16 (土) 11:15~12:00 [受付開始11:00]

会場 ギャラリー1(5F)

出演 八木美知依 Talon (箏アンサンブル)

[八木美知依、磯貝真紀、高橋弘子、小林道恵]

Yagi Michiyo's Talon (Koto Ensemble)

[Yagi Michiyo, Isogai Maki, Takahashi Hiroko, Kobayashi Michie]

中山晃子 (アライヴ・ペインティング)

Nakayama Akiko (Alive Painting)

Program notes 文:八木美知依

♪八木美知依:組曲「あまつ風」(世界初演)

Yagi Michiyo: Heavenly Wind Suite (World Premiere)

風が箏を鳴らす音には、この世のものは思えない幽け響きがある。幼少の頃のある夏の日、縁側で寝転がっていたら不思議な音が聴こえた。驚いて辺りを見渡すと、その音は網戸の近くに立て掛けてあった箏が発しているではないか。じっと見つめていると、風の仕業だと気づき、そのまま遠い空を見上げた。「あまつ風」は空高く吹き抜ける風の事を言う。2020年にCDとして発表した『森の中へ』の表題曲を私の箏アンサンブルTalonのために組曲としてアレンジし、尊敬する中山晃子 (alive painting) を迎えて演奏する。



箏の話をする前に、八木美知依さんとはどういう方か。もちろんアーティストとしては著名なので、知っている人も多いでしょう。でもどんな方なのか。なんだか溢れ出てくる噴水みたいな方で、毎年、毎回、こんなことをしたい、すごいアーティストを見つけたので連れてきてもいいですか、とこちらとしてはありがたい限りです。去年はドラマーのゲストを連れてきてくださり、今年はアライヴペインティングのアーティストを。それでどんな部屋になるのかなあ、と僕もボンクリチームも興味津々です。

ヴァイオリンと モーション センサーの部屋

The Violin and Motion Sensor Room

日程 7.16 (土) 12:30~13:15 [受付開始12:15]

会場 シンフォニースペース (5F)

出演 木村まり (ヴァイオリン・モーションセンサー)

Kimura Mari (Violin / Motion Sensor)

Program notes 文:木村まり

♪藤倉大:モーション・ノーショonz

Fujikura Dai: Motion Notions

♪木村まり:アイゲンスペース

Kimura Mari: Eigenspace

今日はMUGIC®という小さなモーションセンサーを使って音楽的な表現を拡げる演奏とデモンストレーションをさせて頂きたいと思います。2019年に藤倉大さんにMUGIC®とバイオリンのための曲《モーション・ノーショonz》を委嘱させて頂きました。コロナ禍の中、藤倉さんと私はロンドンと南カリフォルニアで隔離している間、遠隔のコラボでした。MUGIC®を弓を持つ右手の手袋にウェアラブルとして内蔵し、バイオリンの弓の速さを使って電子音やイフェクトを変えるなど、モーションセンサーならではの演奏表現の拡張をしました。

《アイゲンスペース》は演奏の動作を電子音源に反映させた初めての自作で、東日本大震災に思いを馳せた「我々の場所」の意の曲です。(ドイツ語でアイゲン(Eigen)は「自己の」という意味で、Eigenvalueとは動きを解析するため使われた数式のこと)現在、MUGIC®はハーバード大学、カリフォルニア大学、ジュリアード音楽院、ベルリン芸術大学、トロント大学などをはじめ、世界中の音楽家だけではなくダンサー、美術家やサーカスにまで使われています。詳しくはこちらをご覧ください。 <https://mugicmotion.com/>



木村マリさんは面白いヴァイオリニストで、ヴァイオリンの演奏が素晴らしいだけでなく、コンピュータのプログラミングや、弓の速さや角度などを察知するモーションセンサーの発明、そのプログラミングもしてしまう方、そして作曲も。

トーンマイスター 石丸の部屋

The Tonmeister Ishimaru Room

日程 7.16(土) 16:30~17:15 [受付開始16:15]

会場 ギャラリー2 (5F)

講師 トーンマイスター石丸、関根愛

Lecturer: Tonmeister Ishimaru, Sekine Megumi

Program notes 文: トーンマイスター石丸

風や鳥や水を奏でる楽器で演奏してみよう!

毎年ボンクリで、変なドクター・石丸と変な助手・愛ちゃんが繰り広げるドタバタ「音の研究所」。世界には昔から、音楽の中で風や鳥や虫、水の音などを演奏するための楽器が作られてきたんだ。「擬音楽器(ぎおんがっき)」っていうんだよ。オーケストラの中でも演奏されてきたんだ。作曲家たちもスコア(楽譜)の中に「ここで鳥の声」「ここで雷」って書いていたんだよ。それらの道具はやがて、オペラや演劇などの舞台公演でも使われたり、電気の時代になってからは、録音したりエフェクトで加工したりして、音を進化させて、SF映画やアニメ、ゲームに使われたりもしてきたんだ。そんな「擬音楽器(ぎおんがっき)」を、実際に触って、遊んで、音を出して遊んじゃおう!最後はみんなで演奏してみよう!「この音、面白い!」「この音、変なの!」と思ったら、その時、新しい音楽が生まれるんだ!

生きてるって、音楽だ。



音楽やっている人や、作曲家も、実は忘れがちなのが「響き」なのです。鳴らす楽器の音、演奏する楽曲の音楽、は注目されるものなのですが、その全てが、どういう状況で音が鳴るのか、それ次第で、心地よい響き、なんて素敵な音色、ひどい音だった、不愉快な音の演奏だった、と決まる訳です。言ってみれば、演奏された音より、「どこで」演奏されたか、の方で、聴く側の感想は決まる。全ての音は空気を通して、壁やらいろんな音の反射を経て耳に届くわけで。そんなことを面白おかしく披露してくださるのがこの部屋。もうボンクリ名物みたいな部屋ですね。

プンクトの部屋

The PUNKT Room

日程 7.16(土) 17:45~18:30 [受付開始17:30]

会場 ギャラリー1 (5F)

出演 ヤン・バング(エレクトロニクス)

アイヴィン・オールセット(ギター)

エリック・オノレ(エレクトロニクス)

Jan Bang (Electronics), Eivind Aarset (Guitar)

Erik Honoré (Electronics)



ボンクリ1年目から参加してくれている、ノルウェーの北欧ジャズのアーティスト達が集まるプンクトの部屋。パンデミックが始まってから、2020年も2021年もギリギリまで渡航できるか、と準備していたのだけれど、今年やっと渡航ができるようになった。来れなかった時は、その時に新しく作った楽曲の提供、演奏動画の提供などをしてくれて、それらをボンクリでも上映したのだけれど、やはり彼らの完全即興の演奏は、生で、そしてその時に作られる新しい音を浴びたいですね。やっと実現して嬉しい。

アンサンブル・スリーの部屋

The Ensemble THREE Room

日程 7.16 (土) 19:00~19:45 [受付開始18:45]

会場 シンフォニースペース (5F)

出演 アンサンブル・スリー

ジョエル・ブレナン (トランペット)

ドン・インメル (トロンボーン)

ケン・マレー (ギター)

Ensemble THREE

Joel Brennan (Trumpet), Don Immel (Trombone)

Ken Murray (Guitar)

Program notes 文: ジョエル・ブレナン

♪ パーシー・グレインジャー (1881-1961):

ランダム・ラウンド

Percy Grainger (1881-1961): Random Round

今回演奏する5つの曲はすべてオーストラリアの作曲家によるもので、伝統的なクラシック音楽だけでなく、民族音楽、ジャズ、ポップス、ロックなど、まったく異なるスタイルの世界を網羅しています。最初の作品を除いて、すべての作品がアンサンブル・スリーのために書かれたものです。パーシー・グレインジャーは吹奏楽の作品でよく知られていますが、20世紀で最も多彩で独創的な作曲家のひとりです。彼は前衛的な技法や様式を試みており、《ランダム・ラウンド》

(1912年)は偶然性の原理を探索した初期の作品です。曲の形式や楽器編成を含む多くの演奏上の決定が演奏者に委ねられており、演奏される度に全くユニークな作品が生まれます。

♪ ケイティ・アボット (1971-):

「ミッドナイト・ソングス」より第1楽章 子守唄

Katy Abbott (1971-): Midnight Songs, Mvt. I "Lullaby"

ケイティ・アボットは、2013年に結成されたアンサンブル・スリーが最初に委嘱した作曲家です。《ミッドナイト・ソングス》(2013)は、瑞々しく広がりのある作品です。初演以来、聴衆からの人気を博し、アンサンブル・スリーのデビューアルバムにも収録されています。3つの楽器はすべてアンプリファイを伴って演奏され、ループペダルの使用により暖かい雰囲気の中で、個々のメロディラインと即興が絡み合い、豊かな音のうねりを創り出します。

♪ ハーリー・ストラウリッジ (1992-): オーバドゥ

Harry Sdraulig (1992-): Aubade

《オーバドゥ》(2017)を通して持続する内省的で叙情的なムードは、爽やかな秋の朝の優しい輝きに例えられるかもしれませんが。表情豊かで織り成すメロディラインは、半音階的なハーモニーの微妙なひねりに支えられています。作曲者のハーリー・ストラウリッジ (1992-) は「この珍しい楽器の組み合わせをできるだけ自然に響かせたい」「色彩的、質感的にさまざまな可能性を追求したい」と述べています。

♪ ウォリー・ガン (1971-): 風車

Wally Gunn (1971-): Pinwheel

《風車》(2016)は、人々がお気に入りの街の公園に集まり、新鮮な芝生に寝そべり、太陽を浴び、おいしいものを食べ、

ボール遊びやフリスビーを投げ、凧を揚げる。そんな春の最初の暖かい週末の感覚をとらえることを目的とした曲です。この長い春の午後は、希望に満ち溢れ、永遠に続くかのようです。メロディとリズムのパターンは、変化を繰り返しながら、陽光のハーモニーへと変化していきます。春風の中で風車が回転するように。

♪ メロディ・エトヴェシュ (1984-): ガンマ

Melody Eötvös (1984-): Gamma

《ガンマ》(2022)は、作曲家メロディ・エトヴェシュ本人が2014年に博士研究の一環として作曲したソロギター作品《Beyond Lilith》を再構築して生まれた作品です。とてもアクティブなエレキギターのパートが特徴で、その周りをトランペット/フリューゲルホルンとトロンボーンがうろつきまわります。



数年前のメルボルン。僕の目の前で、「ジョエルは兵庫県に住んでたじゃん。どうやったら日本で演奏できるかな？ ホール押さえてって感じ？」とトロンボーン奏者のドンがビールを片手に話している。ジョエルが答える前に「東京芸術劇場でよかったら、ボンクリで演奏する？」と言ったら、大喜びしてくれた。元々2020年に参加してもらう予定が、2021年もギリギリまで来れるかな、と日本の国境が開くのを待ったが、やっと今年、入国できることになったので、最初の予定から2年温めたプロジェクト。オーストラリアの音楽ってどんなのだろう!!!

スペシャル・ コンサート

2022.7.16(土)

14:00 開演

13:00 ロビー開場

コンサートホール

出演者 Performer

アンサンブル・ノマド④⑥⑦

佐藤紀雄(指揮・ギター)②④⑥⑦

アン・レイレフア・ランツィロッチェ

(ヴィオラ)⑦

アンサンブル・スリー①

ジョエル・ブレナン(トランペット)

ドン・インメル(トロンボーン)

ケン・マレー(ギター)

山下俊輔(ギター)②

八木美知依(箏)③

ヤン・バング(エレクトロニクス)⑤

エリック・オノレ(エレクトロニクス)⑤

アイヴィン・オールセット(ギター)⑤

藤倉大(シンセサイザー)③

プログラム Program

①藤倉大: THREE (日本初演)
Fujikura Dai: THREE (Japan Premiere)

②久石譲: 揺れ動く不安と夢の球体
Hisaishi Joe: Shaking Anxiety and Dreamy Globe

③八木美知依&藤倉大: アルバム「微美」より
(世界初演)
Yagi Michiyo & Fujikura Dai: From the album "Bibi"
(World Premiere)

— 休憩 —

④アン・レイレフア・ランツィロッチェ:
ビヨンド・ザ・アクシデント・オブ・タイム
(日本初演)
Anne Leilehua Lanzilotti:
Beyond the accident of time (Japan Premiere)

⑤「ビヨンド・ザ・アクシデント・オブ・タイム」
Punkt Live Remix
Punkt live remix of "beyond the accident of time"
by Jan Bang, Erik Honoré, Eivind Aarset

⑥大友良英: 見えない天井と小さな石と(世界初演)
Otomo Yoshihide: Invisible ceiling and small stones
(World Premiere)

⑦藤倉大: ヴィオラ協奏曲「ウェイファインダー」
(世界初演)
Fujikura Dai: Wayfinder - Viola Concerto
〈Ensemble Version〉(World Premiere)

Special Concert

曲目解説 Program notes

1 藤倉大：THREE (日本初演) Fujikura Dai: THREE (Japan Premiere)

オーストラリアのグループ『アンサンブル・スリー』から委嘱されたこの作品は、おそらく僕がこれまで作曲した中で最も幸せな作品だと思います。僕は6歳の時に家族でオーストラリアに滞在したことがあります。クリスマスにビーチで過ごしたこと、青い海、砂浜。鮮明に覚えています。この作品は、6歳の頃の自分のオーストラリアでの幸せな時間に基づいています。3年前にメルボルンでこの作品の初演と録音に立ち会った際に「ボンクリ・フェスは是非出てよ!」と言ったものの、それからパンデミックで2020年、2021年と来日できず、今年やっと来られることになりました。(藤倉大)

2 久石譲：揺れ動く不安と夢の球体 Hisaishi Joe: Shaking Anxiety and Dreamy Globe

今や日本文化を代表するアニメーションの人気作曲家である久石がクラシック・ギタリストの委嘱によって作曲した、アニメのためではない珍しい純器楽曲である。久石はアニメーションの音楽を書く前にはテリー・ライリー風のミニマル音楽を自ら演奏する活動をしていたが、その頃に心酔した音楽を彷彿させる作品。(佐藤紀雄)

久石譲さんの音楽は、もちろん日本中、いや、世界でも知っている人は多いでしょう。僕は小学生の時から「ZOIDS BATTLE MUSIC ゾイドバトルミュージック」が好きで、カセット版をよく聞いていました。そんな中、アンサンブル・ノマドの佐藤紀雄さんが久石さんの現代音楽と言っても良いのかもしれない、この作品を演奏しているのを知りました。その演奏をネットでたまたま僕が見て、紀雄さんに、この曲、スペシャル・コンサートでできませんかね?と相談させていただきました。(藤倉大)

3 八木美知依 & 藤倉大： アルバム「微美」より (世界初演) Yagi Michiyo & Fujikura Dai: From the album "Bibi" (World Premiere)

2020年、パンデミックが始まって家でロックダウン。暇なので、新しいモジュラー・シンセサイザーのソフトを買って、誰か一緒に遊んでくれる人がいないかな、と八木さんに「目的なしと一緒に音楽作りませんか? 全部即興で!」と聞くと、即「ぜひやりましょう!」ということに。ほぼ毎日、八木さんから演奏の録音が届き、それを聴いて、僕はシンセサイザーで音を創ったり、即興したり。時には逆にシンセでこんな音が出たのでと送ると、その上に八木さんの即興演奏が乗って送られてきたりして、アルバムの長さになりました。(藤倉大)

4 アン・レイレフア・ランツィロッチィ： ビヨンド・ザ・アクシデント・オブ・タイム (日本初演) Anne Leilehua Lanzilotti: Beyond the accident of time (Japan Premiere)

この作品は、彫刻家イサム・ノグチがついに完成させることのできなかった1950年の作品「広島の鐘楼」(1986年に部分的に再建された)を称えるものです。ノグチはこの作品「広島の鐘楼」のために鐘が世界中から集められることを構想しました。私の作品では、この彫刻が物理的な彫刻作品というよりは、世界中の鐘によって再現できる音の世界ととらえました。耳を澄まし、深く考える空間を作ることで、私たちはこの彫刻が何を表しているかを思い出すことができるでしょう。深く考え、反省することを促すこの空間に耳を澄まし、再現することで、私たちはこの彫刻が象徴しているものに対し敬意を払い、記憶に留めます。そして、この楽譜は、その出発点にすぎません。(アン・レイレフア・ランツィロッチィ)

5 「ビヨンド・ザ・アクシデント・オブ・タイム」 Punkt Live Remix Punkt Live remix of "beyond the accident of time" by Jan Bang, Erik Honoré, Eivind Aarset

パンデミックが始まってから、毎回(2020年、21年)ぎりぎりまでなんとか日本に行けないか、と話し合いを続け、今年はやっとそれが可能に。「Live Remix」とは、この直前に演奏されたランツィロッチィの作品をその場でサンプリングし、Punktのアーティストがその場でリミックスするもの。僕の周りでも毎回ボンクリでこれが一番好き、という人たちもいます。(藤倉大)

6 大友良英：見えない天井と小さな石と (世界初演) Otomo Yoshihide: Invisible ceiling and small stones (World Premiere)

大友良英さんが毎年新曲をボンクリで発表してくださるのはとてもラッキーなことだと思っています。今年は、ノマド・キッズはお休みして、アンサンブル・ノマド(大人)のために曲を書いてくださることに。何が起こるかわからない一期一会のステージに皆様、ご期待ください!(藤倉大)

7 藤倉大：ヴァイオラ協奏曲「ウェイファインダー」 (世界初演) Fujikura Dai: Wayfinder-Viola Concerto (Ensemble Version) (World Premiere)

本来、2020年にボンクリで世界初演する予定でしたが、今年やっと世界初演できることになりました。この曲のタイトルになっている、「Wayfinder(ウェイファインダー)」とは、アンさんのルーツでもあるポリネシアの伝統的な航海術のことを指します。ウェイファインディング/スターナビゲーション(天体観測、海流や波浪の観測、生物相の観察、風向の観測などから自らの現在位置と方向を推測する航法技術)のアイデアに触発され、作曲しました。(藤倉大)

大人ボンクリ

日程 7.16(土)

20:00 開演

19:30 開場

会場 コンサートホール

楽曲シーケンス Nagie

Music Sequence: Nagie

※出演者のいない公演になります。

プログラム

Program

ルイス・キンタナ: アグアニーレ

Luis Quintana: Aguanilé

Qebr μ s & Qebo: Orion

Qebr μ s & Qebo: Orion

檜垣智也: オルガニカ

Tomonari Higaki: Organica

本田ゆか: 自然 16-B

Yuka C. Honda: Nature 16-B

マヌエラ・ブラックバーン: ジャヴァリ

Manuella Blackburn: Javaari

ピエール・シェフェール: 悲愴のエチュード

Pierre Schaeffer: Étude Aux Casseroles, Dite "Pathétique"

ヴァツワフ・ジンペル: Fen

Wacław Zimpel: Fen

バスティアン・ダヴィド: フライ・トックス

Bastien David: Fly-tox

NAgie: 201204:Stringss

NAgie: 201204:Stringss

※五十音順。正式な曲順は別紙をご確認ください。

「え?お昼にスペシャルコンサートやったら、夜は大ホールって空いてるの?」が最初の大人ボンクリのアイデアでした。だったら、世界最高峰のこのホールを楽器として使って、外からスピーカーとかも持って来ないで、電子音楽を鳴らすコンサートをしようよ!巨大なリスニングルームみたいな!という感じでやり始めました。僕は個人的に大人ボンクリが大好きです。お家に2000席近い大ホールが庭にあります、という人以外は家で絶対体験できないこと。それに巨大なホールで電子音楽を流すとなると、その準備にも大変時間がかかる。それを、このホールのトーンマイスターの石丸さんと、サウンドエンジニアのナギーさんが丁寧にやってくださり実現できています。毎回僕自身も知らない音楽をここで聞きたいので、セレクトをお招きして、それぞれ「この曲を!」という作品を持ち寄ってもらっています。今年はどうなのが集まっているんだろう。。。



曲目解説

Program notes

ルイス・キンタナ: アグアニーレ

Luis Quintana: Aguanilé

ルイス・キンタナはパリを拠点に活躍しているプエルトリコ出身の若手作曲家です。この作品はサンテリア(ヨルバ族に由来するアフロ・アメリカンの宗教)がテーマとなっています。以下、作曲家によるプログラムノートの抜粋です。「サンテリアにおいて、アグアニーレはしばしば水を用いてその場を霊的に清めることである。サクスのパーカッシブな音(あるものは「水中音」を連想させる)の探求の研究として想像されるアグアニーレは、この宗教的伝統に関連するリズムカルでダンス的な魔法の精神を指している。」サクソフォンの音のみで構成されている、短くも魅力的な作品です。(牛島安希子)

Qebr μ s & Qebo : Orion

Qebr μ s & Qebo: Orion

Qebr μ s / Thomas Denis. フランス出身のIDM ミュージックプロデューサー・サウンドクリエイター。2018年2月に他界。デジタル・グリッチ音を多用したユニークな音楽スタイル、常に音色はビートに合わせて過激に変化して、ノイズミュージックながらも非常に音楽的なのが特徴だ。(NAgie)

檜垣智也 : オルガニカ

Tomonari Higaki: Organica

コロナ禍で制限された移動と呼吸から、ひとときの逃避を試みた空想的な音楽。遠くから聴こえる船の汽笛やそれを模した吹奏から得られたサウンドには、広い空間で深い息をしたいという生物としての渴望を担わせています。

なお本作は、昨年12月の「有馬純寿+檜垣智也デュオリサイタル with ヴァーチャル東京現音計画」にて発表した『オルガニカ/リトミカ/アクスマティカ』の第1曲で、今回はこの大ホールのスピーカーシステムのために再調整しました。(檜垣智也)

素材音の提供 : 橋本晋哉 (セルバン・東京現音計画)

大石将紀 (サクセス・東京現音計画)

本田ゆか : 自然 16-B

Yuka C. Honda: Nature 16-B

Nature 16-Bは音楽家本田ゆかのエレクトロニクス、ソロプロジェクトEucademixのFarm Psychedeliaの一曲です。2020年の春、コロナ禍の影響でニューヨーク州のアップステートと呼ばれる大自然でいっぱいのエリアに引っ越して、そこで野生の動物や鳥たち、大きな自然の気候音を二十四時間聴く世界にはまりました。当地には元アーティストの人たち

が集まって、経済採算などは無視で、労力を惜しまず手で草を抜きながら、そして土の微生物などから調整をしている素晴らしいファーマーたちに出会い大きく感銘を受けました。土の匂いや風や雨の記憶を感じる音を聞いていただけたらと思います。(本田ゆか)

マヌエラ・ブラックバーン : ジャヴァリ

Manuella Blackburn : Javaari

昨年に引き続きイギリスを拠点として活動しているマヌエラ・ブラックバーンの作品を取り上げます。タイトルの "ジャヴァリ" とは北インド発祥の弦楽器、シタールのブリッジ部分、またシタールが奏でる独特の音色を指す言葉でもあります。作品内で作曲家は様々な楽器音の探求の中でも特に声楽のメリスマのようにアーチを描く美しいピッチベンドに注目しています。作品は4つのエピソードで構成されています。多くの場合、シタールの音素材が前面に出てきますが、時には後退したり断続的に押し出されたりします。作品はリバプール・ホープ大学を拠点とするMilapfest (インド芸術開発トラスト) とのコラボレーションによって作曲されました。(牛島安希子)

ピエール・シェフェール : 悲愴のエチュード

Pierre Schaeffer: Étude Aux Casseroles,

Dite "Pathétique"

新刊「藤倉大のボンクリ・アカデミー」の電子音楽編でも取り上げたミュージック・コンクレートの古典を聴きましょう。シェフェールがターンテーブルと戯れてみつけた、機械的なリズムやピアノの音を加工してできた管楽器のような音など、電子音楽を作る根源的な喜びと遊び心が聴こえてきます。(檜垣智也)

ヴァツワフ・ジンベル : Fen

Wacław Zimpel: Fen

「Fen」はクラリネットが発する特徴的な「ノイズ」を焦点としています。古典的なクラリネットの音色からすると望ましくない雑音に思われがちですが、私にとってノイズこそクラリネットの最も興味深い要素であり、この楽器が自然界や地球そのものから生まれたものであることを思い出させてくれます。「Fen」はアルト・クラリネットで即興演奏した音源にディレイやリバーブなどのエフェクトを加えた作品です。表題は「fön」や「foehn」としても綴られる、いわゆるフェーン現象(風災)を意味します。(ヴァツワフ・ジンベル)

バスティアン・ダヴィド : フライ・トックス

Bastien David: Fly-tox

バスティアン・ダヴィドも同じくパリを拠点としている新進気鋭の作曲家です。彼はオーケストラ作品などを主に作曲していますが、メタロフォンという微分音打楽器の発明なども行っています。今回の電子音楽作品、「Fly-tox」ではデジタル効果を一切使用せず、自然の音のみをマイクロ編集して作曲されています。「Fly-tox」は極めて毒性の強い殺虫剤とのこと。以下、作曲家によるプログラムノートです。「ハエ、蚊、蛾、ナンキンムシ、ノミ、シラミ、アリ、ゴキブリ、スズメバチなどに殺傷力があります。Fly-Toxだけが人間やペットにとって安全です。すべての優良な家庭から入手可能です。研究所長」(牛島安希子)

NAgie : 201204:Stringsss

NAgie: 201204:Stringsss

2020年の作品。メインのノイズパートはノイズ素材の編集ではなく、1つのストリングスシンセサウンドのみから生成されています。それは音楽的にモーディングした変調を行うために、さまざまなエフェクトプロセッシングをおこなっています。(NAgie)

Artist Profile



©Maki Takagi

アンサンブル・ノマド Ensemble NOMAD

現代音楽アンサンブル
Contemporary music ensemble

ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されている。今年結成25周年を迎える。

[アンサンブル・ノマド]

フルート:木ノ脇道元

オーボエ:林憲秀

クラリネット:菊地秀夫

ファゴット:奈波和美

ホルン:萩原顕彰

トランペット:佐藤秀徳

バイオリン:花田和加子、甲斐史子

チェロ:菊地知也

コントラバス:佐藤洋嗣

ピアノ:中川賢一

打楽器:宮本典子

ナレーション:ダースレイダー

指揮・ギター・マンドリン:佐藤紀雄

[ノマド・キッズ]

淵田多紀(チェロ)

淵田鈴依(バイオリン)

和田ちあ

宇高そら

佐藤朱夏

佐藤紀雄

Sato Norio

指揮、ギター

Conductor, Guitar



©Akitooshi Higashi

ギター奏者として古典のレパートリーのほか武満徹、高橋悠治、近藤譲、松平頼暁、福士則夫などの作品の世界初演を手掛け、また指揮者としても内外の現代作品の演奏、初演を行っている。1997年にアンサンブル・ノマドを結成し、音楽監督に就任。ソロ、アンサンブルのCDも多数リリースしている。

アン・レイレフア・ランツィロッチ

Anne Leilehua Lanzilotti

ヴィオラ

Viola



©Blaise Hayward Studio

カナカ・マオリ(ハワイ先住民)の音楽家。ニューヨーク・タイムズ紙より「優れた作曲家-演奏家」と評され、コンセプトと深く結びついた作曲ではユニークな楽器を度々取り入れている。レコーディング・アーティストとして、ビョーク「Vulnicura Live」やジョン・オズボーン「Love and Hate」、藤倉大の「Chance Monsoon」などのアルバムにヴィオラで参加。

アンサンブル・スリー

Ensemble THREE

ジョエル・ブレナン(トランペット)

Joel Brennan, Trumpet

ドン・インメル(トロンボーン)

Don Immel, Trombone

ケン・マレー(ギター)

Ken Murray, Guitar



©Vanessa White

トランペット、トロンボーン、ギターによるユニークな編成のトリオ。クラシック音楽文化の先進的で、刺激的な事例として高い評価を得ており、メルボルン・リサイタル・センターの「Contemporary Masters Award」を受賞。オーストラリア、アメリカ、シンガポール、香港、中国でツアー公演を行い、そのパフォーマンスは「芸術的に非の打ちどころがない」など、好評を博した。メンバー全員がメルボルン音楽院で教鞭を執っている。

ヤン・バング

Jan Bang

エレクトロニクス

Electronics



音楽家、レコードプロデューサー。ノルウェー南部の町クリスチャンサンで育ち、同郷の音楽家エリック・オノレと音楽活動を始める。2005年からはライブミックスをコンセプトとした即興音楽祭「ブント」を立ち上げ、現代ノルウェーで最も革新的な音楽家の1人として活躍している。

エリック・オノレ

Erik Honoré

エレクトロニクス

Electronics



©Natalia Kutsepova

作家、音楽家、レコードプロデューサー、サウンドエンジニア。音楽祭「ブント」の共同設立者。2017年に最新ソロアルバム「UNREST」をリリース。

アイヴィン・オールセット

Eivind Aarset

ギター

Guitar



現在ノルウェーで最も人気のあるギタリストの1人。デビュー作『Electronique Noir』は「マイルス以後のエレクトリック・ジャズでも最も優れたもの」(ニューヨーク・タイムズ)と評されている。

八木美知依

Yagi Michiyo

箏

Koto



©Albane Laure

邦楽はもちろん前衛ジャズや現代音楽からロックまで幅広く活動するハイパー箏(こと)奏者。多くのジャズ・フェスティバルのステージに立ち、世界中の優れた即興家と共演を続けたから、J-POPアーティストのコンサートや録音にも参加。英ワールドミュージック誌 Songlines の《世界の最も優れた演奏家50人》に選ばれている。

山下俊輔

Yamashita Shunsuke

ギター

Guitar



高知県出身。桐朋学園大学短期大学専攻科を首席で卒業。2006年にギターデュオ「いちむじん」としてメジャーデビュー。数々のCM、映画、ドラマ、アニメなどに参加し、2010年大河ドラマ「龍馬伝」、映画「沈まぬ太陽」で飛躍的に活動を広げる。作曲家として多数の企業、歌手に楽曲提供を行う。2011年から海外公演を行っており世界各地で高い評価を得る。

本條秀慈郎

Honjoh Hidejro

三味線
Shamisen



本條秀太郎に古典・現代音楽を師事。演出家蛭川幸雄らが演奏を高く評価。桐朋学園短期大学部卒、ACCフェロー受給によりNYへ留学。文化庁文化交流使に任命され世界30公演、ロンドン・ウイグモアホールソロリサイタル。国内外のオーケストラ・アンサンブルと共演を重ねる。芸術選奨文部科学大臣新人賞。2022年アメリカU.C DAVISとBATES Collegeのアーティスト・イン・レジデンスに選出。

中山晃子

Nakayama Akiko

アライヴ・ペインティング
Alive Painting



画家。液体から固体までさまざまな材料を相互に反応させて絵を描く「Alive Painting」というパフォーマンスを行う。あらゆる現象や現れる色彩を、生物や関係性のメタファーとして作品の中に生き生きと描く。様々なメディアムや色彩が渾然となり変化していく作品は、即興的な詩のようでもある。近年ではNew Ars Electronica opening performance 2019（オーストリアリンツ）、Tokyo 2020 オリンピック閉会式などに参加。http://akiko.co.jp

木村まり

Kimura Mari

ヴァイオリン
Violin



ヴァイオリニスト・作曲家。桐朋学園で江藤俊哉氏に師事。ジュリアード音楽院博士号を取得。カーネギー財団に2011年度「アメリカの誇る45人の外国人」唯一の日本人として選ばれる。2017年よりカリフォルニア大学アーバイン校「作曲・即興・テクノロジー統合学科」の正教授。2020年コロナ禍の中、モーションセンサーMUGIC®を販売、起業し、米国下院と加州議会より「起業家のリーダー」として承認される。

川村葵山

Kawamura Kizan

尺八
Shakuhachi



尺八を父、川村泰山に師事。くまもと全国邦楽コンクール最優秀賞受賞。都山流全国本曲コンクール金賞受賞。和のオーケストラ「むつのを」、「The Shakuhachi 5」等に所属。東京を中心に演奏活動の他、学校公演や子供のためのリトミック教室、YouTubeへ動画投稿する等、尺八を一般に広めるべく活動中。

吉澤延隆

Yoshizawa Nobutaka

箏
Koto



2008年第15回賢順記念全国箏曲コンクールにおいて第1位・賢順賞を受賞。2021年より、異なる分野のアーティストや専門家をつなぐコンサート・プロジェクト「NOBU-LAB.」(ノブラボ)をスタート。現在大学で教鞭をとりながら、東京文化会館ワークショップ・リーダーとして未就学児やその家族などに対するワークショップ活動も行っている。

藤舎夏実

Tosha Natsumi

邦楽囃子方
Hougakuhayashikata



1991年福岡生まれ。藤舎呂英、藤舎千穂に師事。2012年3月有明教育芸術短期大学卒業。2014年3月 東京藝術大学音楽学部邦楽科邦楽囃子専攻別科修了。いしかわ子ども邦楽アンサンブル講師。藤舎流 真しほ会、青満会 同人。

本條秀英二

Honjoh Hideeiji

三味線
Shamisen



1991年、アメリカ ロスアンゼルスに生まれ、6歳よりピアノを始め10歳より三味線とクラリネットを始める。UCLA在学中2009年より本條秀太郎に師事し、本條秀英二の名を許される。桐朋学園芸術短期大学芸術科音楽専攻日本音楽専修卒業。本條秀太郎に現代音楽を師事した。2020年奏楽堂130周年記念演奏会「和の音が生まれる時」にて独奏。

現代奏造Tokyoサクスカルテット

Gendai Souzou Tokyo Saxophone Quartet

サクスカルテット
Saxophone Quartet



現代社会における音楽の在り方に対する様々な問題意識を共有する若手演奏家により2016年に結成された自主運営の管打楽合奏団。音楽監督に板倉康明を迎え、この編成に特化した現代音楽作品を中軸に創造的活動を行っている。これまでに7回の定期演奏会を軸に年6回のノカ・アソナホールでの通算21回のシーズンコンサート他、「NHK-FM 現代の音楽」での放送にも出演し、現在その活動は各方面から吹奏楽の新たな展開として注目されている。

檜垣智也

Higaki Tomonari

「電子音楽の部屋」監修
"Electronics Music Room" Supervisor



愛知県立芸術大学大学院修了。博士(芸術工学、九州大学)。フランス留学中に現代音楽の作曲とアコースモニウムの演奏で注目される。ボンクリでは1回目から電子音楽の部屋の監修を担当。第5回国際リュック・フェラーリ・コンクール最高賞(2003)、第18回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品(2014)、大阪文化祭奨励賞(2022)など受賞、入選多数。東海大学准教授、大阪芸術大学大学院客員教授。

石丸耕一

Ishimaru Koichi

「トーンマイスター石丸の部屋」講師
Lecturer of The Tonmeister Ishimaru Room



舞台音響を辻亨二氏に、オペラの音響をポリシヨイ劇場元芸術監督ボリス・ポクロフスキー氏に師事。歌舞伎座、新橋演舞場勤務の後、東京芸術劇場サウンドデザインレクター。岡田利規演出「團伊玖磨／歌劇『夕鶴』(新演出)」(2021)など劇場主催のオペラ公演のサウンドデザインに携わる。昭和音楽大学講師を兼任。日本舞台音響家協会副理事長。

永見竜生 [Nagie]

Nagami Tatsuo [Nagie]

エレクトロニクス
Electronics



マルチ・サウンドクリエイター、レコーディング・エンジニア。藤倉大／歌劇「ソラリス」(東京芸術劇場2018)にてエレクトロニクス／サウンドプロジェクトを担当。蒲池愛の現代音楽作品のMaxプログラミングを行いISCM、ICMC、NIMEに入選。aikamachi+nagie, ANANT-GARDE EYESとしてCM、アニメ、映像作品のRecordingからMix、作曲を行う。

大友良英

Otomo Yoshihide

作曲
Composition



ターンテーブル奏者、ギタリスト、作曲家。実験的な音楽からジャズやポップス、NHKの朝の連続小説「あまちゃん」の作曲など作風は多種多様。日本はもとより世界各地で多くのアーティストとコラボレーションを行う。NHK大河ドラマ「いだてん」の音楽を担当した。

新型コロナウイルス感染症対策とお願い

- ①検温にご協力いただきますようお願い申し上げます。検温の結果により、37.5度以上の発熱が認められた場合、入場をお断りする可能性がございます。
- ②マスクの着用にご協力ください。
- ③咳エチケットやこまめな手洗い、手指消毒にご協力ください。
- ④整列や入退場、移動時等のソーシャル・ディスタンスの確保にご協力ください。
- ⑤会場内での会話は極力お控えいただき「ブラボー」などの掛け声は禁止とさせていただきます。
- ⑥クローカーサービス、ブランケットの貸出、給水機は中止しております。
- ⑦出演者へのプレゼント、ご面会、楽屋口での出待ちはご遠慮ください。



東京版新型コロナ見守りサービス

東京都では、都立施設や民間店舗等でクラスターが発生した場合、訪問履歴から利用者に感染情報を通知するサービスを行っております。館内入口付近に掲示してあるQRコードを、スマホカメラなどで読み取ることでご利用いただけます。どうぞご活用ください。

アンケートのお願い


本日はご来場いただき誠にありがとうございます。今後の劇場運営に関わる資料として活用させていただきますので、大変お手数ではございますがアンケートのご協力をお願い致します。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、アンケート用紙は、当面の間お配りいたしません。お手持ちの携帯・スマートフォン等から右記QRコードを読み取り頂くか、下記URLをご参照の上、アンケートへのご入力をお願い致します。

<https://forms.gle/9Y9FqNNxqCpDTUND6>



ボンクリ・フェス2022 “Born Creative” Festival 2022

主催＝文化庁、公益財団法人東京都歴史文化財団
企画制作＝公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

 文化庁委託事業
文部科学省 「令和4年度戦略的芸術文化創造推進事業」

助成＝公益財団法人 ロームミュージックファンデーション
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団

NOMURA 野村財団

機材協力＝ローランド株式会社、株式会社楽器音響



[プログラム]

発行：東京芸術劇場

デザイン：秋澤一彰 米山えみ 印刷：株式会社読売IS

発行日：2022年7月14日 禁断転載